

青銅器の埋納位置の解説（その6）：埋納位置の選定

吉田 薫

1. はじめに

本研究は、弥生時代の青銅器の埋納位置についての検討であり、過去、次のような報告を行っている。

(1) 「その1」（2015年度：H28.01）・・・別題の参考として示す。

荒神谷遺跡及び加茂岩倉遺跡の青銅器埋納位置を結ぶ線は、大黒山—高瀬山ラインと直交し、両山と両埋納位置の4点を結ぶと、底辺を共有する二つの二等辺三角形ができる。また、両埋納位置は、周辺の神社やランドマークとなる山頂などと幾何的な関係がある。

〔検討遺跡〕荒神谷遺跡、加茂岩倉遺跡（島根県）

(2) 「その2」（2017年度：H30.01）・・・別題の参考として示す。

東日本では珍しい柳沢遺跡及び新発見の松帆銅鐸の周辺の位置関係の把握。青銅器埋納位置と周辺事物（山、神社等）は、多重・精細な位置関係となっている。また、関係性を応用すれば、未発見の埋納地も推定できるのではないか。

〔検討遺跡〕柳沢遺跡（長野県）、松帆銅鐸（兵庫県淡路島）

〔未発見地〕3カ所（試案）

(3) 「その3」（2019年度：R02.01）

青銅器埋納位置の出雲国における広域的な位置関係、及び源田・安都真遺跡における位置関係。加えて、各地における未発見地の推定。

〔検討遺跡〕荒神谷遺跡、加茂岩倉遺跡、志谷奥遺跡（島根県）、源田・安都真遺跡（徳島県）

〔未発見地〕車山（島根県安来市）、茶臼山（島根県松江市）、大船山（島根県出雲市）、川本町（島根県）、総社市（岡山県）、太子町（兵庫県）、淡路島・松帆（兵庫県）、五十崎町（愛媛県）、下関市・吉見（山口県）、糸島市（福岡県）、湖西市（静岡県）、姫川（新潟県）

(4) 「その4」（2020年度：R03.01）：青銅器はなぜ埋められたのか

全国各地の青銅器遺跡の位置関係の検証、及び青銅器埋納後の遺跡である西谷墳墓群の位置についての検討。古い農耕祭祀のシンボルとしての青銅器は、鉄器普及による水田改築によってその役割を終え、埋納されたのではないか。

〔検討遺跡〕桜ヶ丘遺跡（兵庫県）、星河内遺跡（徳島県）、大岩山遺跡（滋賀県）、原町・紅葉ヶ丘・安徳原田遺跡（福岡県）、我拝師山遺跡（香川県）、青谷上寺地遺跡（鳥取県）、志谷奥遺跡（島根県）、中野仮屋遺跡（島根県）、西谷墳墓群（出雲市）

(5) 「その5」（2021年度：R04.01）：古代出雲国における測量と古地図の存在

出雲国の古代の測量は、大山や三瓶山を基線とし、カンナビ山等ランドマークとなる山の位置を確定することに始まるのではないか。また、青銅器埋納位置とランドマークの山や神社位置とは幾何的な関係がある。これらの関係は、相応の測量技術とその成果である地図がなければ構築できない。測量と地図の作成は、国の創成期にさかのぼるのではないか。

本稿においては、主観的要素を排除するため、青銅器埋納位置、山頂位置及び神社位置の緯度・経度（測地系の座標値＝デジタルデータ）を用いて相互関係を把握する。その上で、青銅器の埋納位置を選定する手順について推考する。

2. 志谷奥遺跡の位置

大山－三瓶山は、出雲国の測量上の基線と考えられる（図-1 及び「その5」参照）。

各地点の緯度・経度は表-1 より、大山：35°22' 16",133°32'46"、志奥谷：35°31'2.0", 132°59'28.8"、三瓶山：35°8'26",132°37'18"。2点の位置関係は表-2 より、大山－三瓶山：距離 87.93km,方位角 253.355194°、大山－志谷奥：52.91km,288.009111°、三瓶山－志谷奥：53.63km,38.702153°。角度は表-3 より、∠志谷奥－大山－三瓶山：34.65°、∠志谷奥－三瓶山－大山 34.12°。両角度はほぼ同じであり、△大山－志谷奥－三瓶山は二等辺三角形といえる。つまり、大山－三瓶山を基線とし、その垂直二等分線上に志谷奥遺跡がある。そして、大山－志谷奥の線上には嵩山が、三瓶山－志谷奥の線上には荒神谷遺跡と大袋山、仏経山、朝日山東峰が位置する。

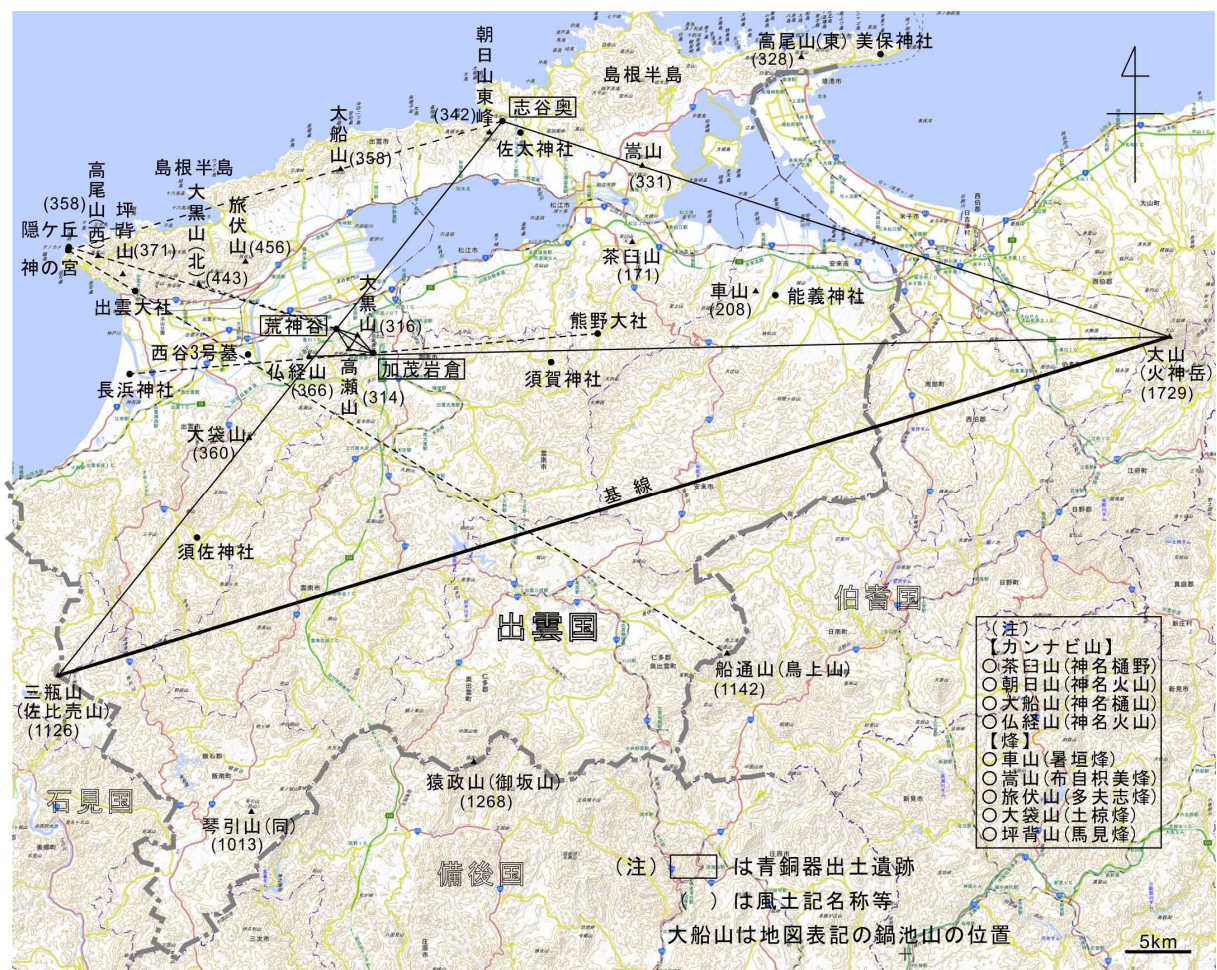


図-1 位置図

表-1 各地点の座標値

位置	標高 (m)	緯度			経度			10進法		座標根拠	備考(祭神等)
		度	分	秒	度	分	秒	緯度	経度		
基線	大山	1729	35	22	133	32	46	35.37111111	133.54611111	地理院山岳一覽	国引き神話
	三瓶山	1126	35	8	132	37	18	35.14055556	132.62166667	地理院山岳一覽	国引き神話
	船通山	1142	35	9	133	10	43	35.15583333	133.17861111	地理院山岳一覽	スサノオ降臨
カンナビシ山等	嵩山	331	35	29	133	6	28	35.48666667	133.10777778	図上計測	烽
	朝日山東峰	342	35	30	132	58	51	35.50944444	132.98083333	図上計測	神名火山
	朝日山中峰	*340	35	30	132	58	42	35.50972222	132.97833333	図上計測	
	朝日山西峰	344	35	30	132	58	35	35.50777778	132.97638889	地理院山岳一覽	
	大船山	358	35	29	132	51	23	35.48444444	132.85638889	図上計測	神名樋山
	仏経山	366	35	21	132	49	49	35.35805556	132.83027778	図上計測	神名火山
	大袋山	360	35	18	132	46	49	35.30250000	132.78027778	図上計測	烽
	大黒山	315	35	22	132	52	16	35.37222222	132.87111111	図上計測	国造り神話
	高瀬山	314	35	21	132	51	49	35.36277778	132.86361111	図上計測	
	大黒山(北)	443	35	24	132	44	19	35.40625000	132.73861111	図上計測	上段と同名
高尾山(西)	358	35	25	132	39	17	35.42583333	132.65472222	図上計測	スサノオ関連	
遺跡	志谷奥	—	35	31	132	59	28.8	35.51722222	132.99133333	島根県遺跡DB	銅剣・銅鐸
	加茂岩倉	—	35	21	132	53	0.3	35.35986111	132.88341667	島根県遺跡DB	銅鐸
	荒神谷	—	35	22	132	51	8.9	35.37647222	132.85247222	島根県遺跡DB	銅矛・銅斧・銅鐸
	西谷三号墓	—	35	21	132	46	46.8	35.35913889	132.77966667	島根県遺跡DB	墳墓群最古
神社等	出雲大社	—	35	24	132	41	8	35.40166667	132.68555556	図上計測,古本殿	オオクニニシ
	日御碕・隠ヶ丘	*60	35	25	132	37	49	35.43194444	132.63027778	図上計測	スサノオ隠棲
	日御碕・神の宮	—	35	25	132	37	47	35.42972222	132.62972222	図上計測	スサノオ
	日御碕・経島	—	35	25	132	37	36	35.43055556	132.62666667	図上計測	アマテラス
	熊野大社	—	35	22	133	4	14	35.37333333	133.07055556	図上計測	スサノオ
	長浜神社	—	35	20	132	40	51	35.34583333	132.68083333	図上計測	ヤツカミズオミツヌ
参考	大山真西	—	35	22	132	37	18	35.37111111	132.62166667	経度:三瓶山	計算誤差の把握

(注) ・図上計測は電子国土webによる。DB:データベース。・大船山は既稿に基づき、地理院地図の鍋池山の位置とした。
・北緯及び東経は+表示、南緯及び西経は-表示。・標高の「*」は側近の等高線の高さ。

表-2 二点の位置関係

位置関係	距離(km)	方位角
1) 大山-三瓶山	87.93	253.355194
2) 大山-嵩山	41.82	287.980200
3) 大山-仏経山	65.07	268.931686
4) 大山-高瀬山	62.03	269.343525
5) 大山-志谷奥	52.91	288.009111
6) 大山-加茂岩倉	60.24	269.004533
7) 三瓶山-大山	87.93	72.821569
8) 三瓶山-朝日山東峰	52.36	38.484283
9) 三瓶山-朝日山中峰	52.24	38.269005
10) 三瓶山-朝日山西峰	51.96	38.264733
11) 三瓶山-仏経山	30.70	38.135303
12) 三瓶山-大袋山	23.05	38.743547
13) 三瓶山-志谷奥	53.63	38.702153
14) 三瓶山-荒神谷	33.56	38.658914
15) 大黒山-高瀬山	1.25	213.044992
16) 大黒山-荒神谷	1.76	285.562397
17) 大黒山-隠ヶ丘	22.86	286.920025
18) 大黒山-神の宮	22.84	286.291236
19) 大黒山-経島	23.13	286.320042
20) 大黒山-大黒山(北)	12.62	287.450428
21) 大黒山-高尾山(西)	20.54	286.897719
22) 志谷奥-大船山	12.77	253.495933
23) 志谷奥-隠ヶ丘	34.11	253.999461
24) 志谷奥-神の宮	34.23	253.626697
25) 志谷奥-経島	34.47	253.905667
26) 荒神谷-加茂岩倉	3.36	123.230086
27) 荒神谷-大黒山	1.76	105.551608
28) 荒神谷-高瀬山	1.83	146.323750
29) 荒神谷-高尾山(西)	18.78	287.011928
30) 荒神谷-隠ヶ丘	21.10	287.022342
31) 加茂岩倉-高瀬山	1.83	280.197094
32) 加茂岩倉-大黒山	1.77	320.808225
33) 加茂岩倉-荒神谷	3.36	303.247997
34) 熊野大社-長浜神社	35.55	265.189628
35) 熊野大社-加茂岩倉	17.07	265.031481
36) 大山-西谷3号墓	69.67	269.129356
37) 船通山-出雲大社	52.50	301.442847
38) 船通山-神の宮	58.45	301.483644
ズレ 大山-大山真西(表-1)	84.01	270.267569

(注) 方位角は地理院計算サイトで求めた。

表-3 三点の直線性と相互関係

関係線	距離(km)	計算式	角度	ズレ(m)	備考
∠志谷奥-大山-三瓶	52.91	5)-1)	34.65	497	同角
∠志谷奥-三瓶-大山	53.63	7)-13)	34.12		
大山-嵩山-志谷奥	52.91	5)-2)	0.03	27	
大山-加茂岩倉-仏経山	65.07	6)-3)	0.07	83	
大山-加茂岩倉-高瀬山	62.03	4)-6)	0.34	367	
三瓶山-朝日山東峰-志谷奥	53.63	13)-8)	0.22	204	
三瓶山-朝日山中峰-志谷奥	53.63	13)-9)	0.43	405	
三瓶山-朝日山西峰-志谷奥	53.63	13)-10)	0.44	409	
三瓶山-仏経山-志谷奥	53.63	13)-11)	0.57	531	
三瓶山-大袋山-志谷奥	53.63	12)-13)	0.04	39	
三瓶山-荒神谷-志谷奥	53.63	13)-14)	0.04	40	
大黒山-荒神谷-隠ヶ丘	22.86	17)-16)	1.36	542	
大黒山-荒神谷-神の宮	22.84	18)-16)	0.73	291	
大黒山-荒神谷-経島	23.13	19)-16)	0.76	306	
志谷奥-大船山-隠ヶ丘	34.11	23)-22)	0.50	300	
志谷奥-大船山-神の宮	34.23	24)-22)	0.13	78	
志谷奥-大船山-経島	23.13	25)-22)	0.41	165	
荒神谷-高尾山(西)-隠ヶ丘	21.10	30)-29)	0.01	4	
大黒山-高瀬山-荒神谷-加茂岩倉	—	15)-26)	89.81	—	直交
∠大黒山-荒神谷-加茂岩倉	—	26)-27)	17.68	—	同角
∠大黒山-加茂岩倉-荒神谷	—	32)-33)	17.56		
∠加茂岩倉-荒神谷-高瀬山	—	28)-26)	23.09	—	同角
∠荒神谷-加茂岩倉-高瀬山	—	33)-31)	23.05		
熊野大社-加茂岩倉-長浜神社	35.55	34)-35)	0.16	98	
大山-仏経山-西谷3号墓	69.67	36)-3)	0.20	240	
船通山-出雲大社-神の宮	58.45	38)-37)	0.04	42	
大黒山-荒神谷-大黒山(北)	12.62	20)-16)	1.89	416	

(注) ・ズレの距離は、遠点距離とラジアン値より求めた。

・着色欄は直線性が顕著。

・ズレの計算に用いる角度は、表-2に基づく。

3. 荒神谷遺跡及び加茂岩倉遺跡の位置

緯度・経度は表-1 より、荒神谷：35°22′35.3″,132°51′8.9″、加茂岩倉：35°21′35.5″,132°53′0.3″、大黒山 35°22′20″,132°52′16″、高瀬山：35°21′46″,132°51′49″。2 点の位置関係は表-2 より、大黒山－高瀬山 1.25 km,213.044992°、荒神谷－加茂岩倉 3.36km,123.230086°。表-3 より、両線の方位角の差は 89.81°であり直交している。また、∠大黒山－荒神谷－加茂岩倉 17.68°と∠大黒山－加茂岩倉－荒神谷 17.56°、∠加茂岩倉－荒神谷－高瀬山 23.09°と∠荒神谷－加茂岩倉－高瀬山 23.05°であり、底辺が共通の 2 つの二等辺三角形が形成されている。

4. 青銅器埋納位置の選定

上記 3 遺跡の位置選定の手順はどのようであったのかを推察する。

(1) 志谷奥

○方針（推定）

埋納位置は、大山－三瓶山を基線とし、その垂直二等分線上とする。さらに、その線上の特異点とする。同線上の大山－嵩山の線と三瓶山－大袋山－仏経山－朝日山東峰の線が交わる点がある。よってこの位置とする。

※選点には図上検討のための地図が不可欠である。

○測量方法（推定）

図-2 から分かるように、志谷奥の埋納位置は、三瓶山、大山、朝日山、嵩山の、いずれの山頂からも見通すことができない。山間地なので、距離測定を伴う測量は不適當である。よって、主要な山位置から中継点を用いて角度を測定しながら現地に接近し、視点場 2 点からの見通し（交会法）により埋納位置（写真-1,2）を決める。

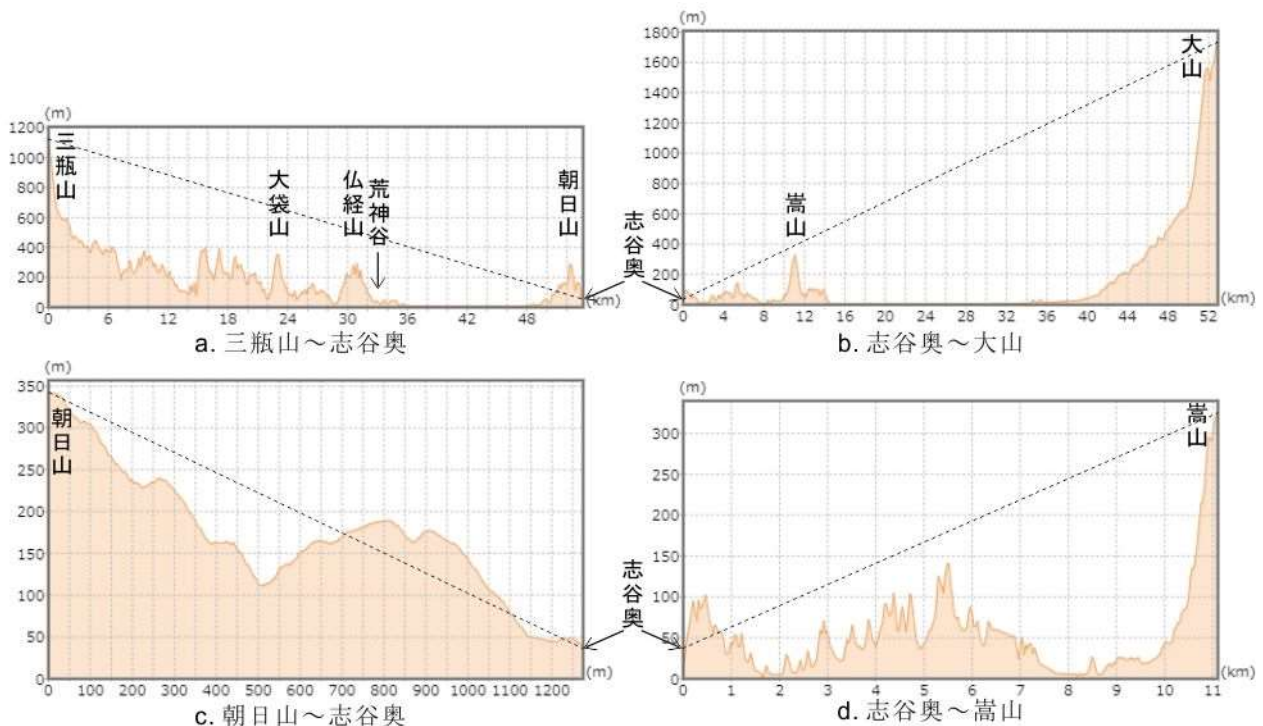


図-2 三瓶山－志谷奥－大山、朝日山－志谷奥、志谷奥－嵩山の地形断面図
(電子国土 Web を用いて作成、以下同)



写真-1 志谷奥全景



写真-2 志谷奥青銅器埋納位置
(銅鐸3個、銅剣6本出土)

(2) 荒神谷と加茂岩倉

○方針 (推定)

大山、三瓶山及び志谷奥と関連付け、かつ特異点を選定する。現地において、仏経山付近で対に見える大黒山と高瀬山(写真-3)とに関係づける。(分割埋納の理由及び両山選定の詳細は不明。) 図-3において、大黒山と高瀬山を結ぶ線を線cとする。線cと直交し、かつ線a(三瓶山-志谷奥)と線b(大山-仏経山)までが同距離となる線dを選定する(交点はX)。線dと、線a及び線bの交点を両埋納位置とする。

※選点には図上検討のための地図が不可欠である。



写真-3 大黒山と高瀬山
(斐川公園の大神(狼)神社より望む)

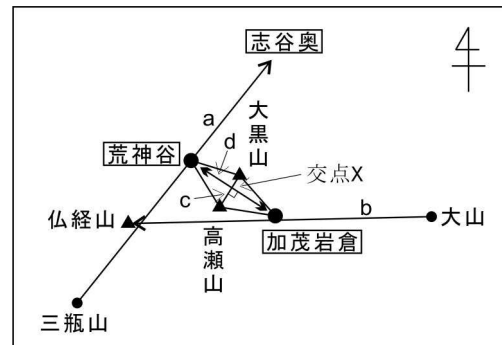


図-3 埋納位置の模式図

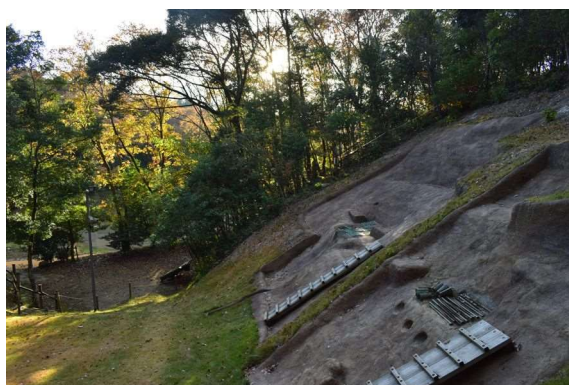


写真-4 荒神谷遺跡青銅器埋納位置
(銅鐸6個、銅矛16本、銅剣358本出土)



写真-5 加茂岩倉遺跡青銅器埋納位置
(銅鐸19個出土)

○測量方法（推定）

図-4 から分かるように、荒神谷及び加茂岩倉の埋納位置からは相互に見通すことはできない。また、荒神谷の埋納位置は、大黒山・高瀬山より見通せない。加茂岩倉の埋納位置は、高瀬山からは樹木を伐採すれば見通せるが、大黒山からは見通せない。山間地なので、距離測定を伴う測量は不適當である。主要な山位置から中継点を用いて角度を測定しながら現地に接近し、視点場 2 点からの見通し（交会法）により埋納位置（写真-4,5）を決定する。

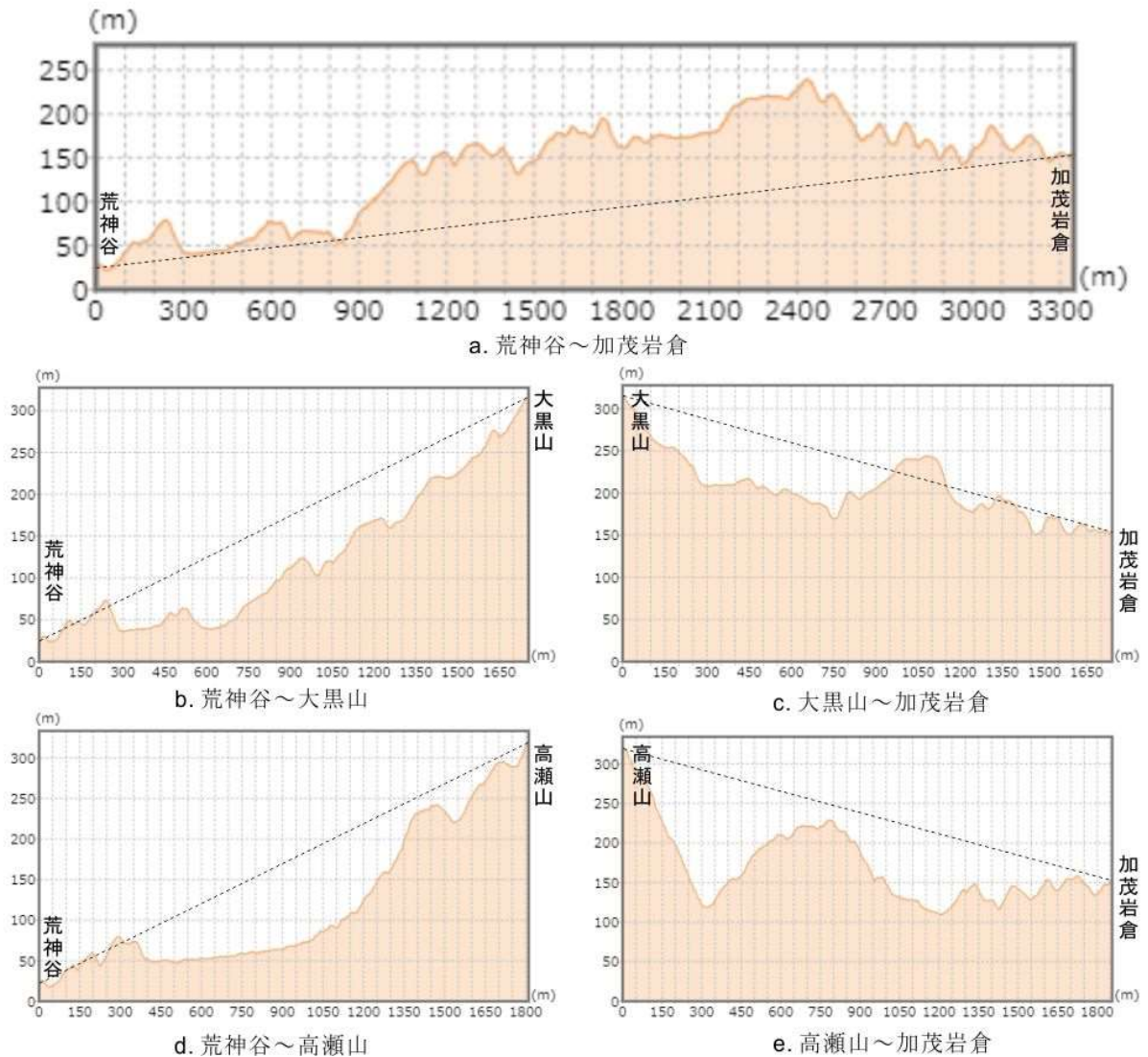


図-4 荒神谷－大黒山－加茂岩倉と荒神谷－高瀬山－加茂岩倉の地形断面図

5. 埋納の意図

3 ヲ所の青銅器埋納位置が一連の方法で選定されたということは、青銅器の埋納は同一の意思に基づいて行われたものだと考えられる。山林中に測点を設定するのは容易な作業ではない。現地で測量にあたった従事者の中には、“何もそこまで”と思う者もあったかもしれない。祈りに関しては不明なことが多いが、後世に測量技術の存在を示すことにはなったようだ。当然、敵に攻められて慌てて埋めたようなものではない。

既稿「その4」において、青銅器は水稻栽培のための基盤整備とその保全（災害防除）の祈りのための祭器であり、古い水田の改築とともにその役割を終え、埋納されたのではないかとした。また、大量埋納の理由は今後の検討課題とした。

以下は、銅鐸に焦点をあてて検討する。

加茂岩倉遺跡では大小の銅鐸 39 個の多くが入れ子状態で出土した。年代は子（小）が古く、親（大）が新しい。それぞれの劣化の程度の違いから判断すると、別々の場所で使用されていたものが集められて一括して埋納されたと推察される。ただし、音を鳴らすための「舌（ぜつ）」の所在は不明である。

一方、松帆銅鐸を始めとする淡路島で見つかった銅鐸には舌を伴うものが多い。埋土に混入していた植物により年代測定が行われたが期待された成果は得られなかった。舌を外すという過程（約束事）がないことから判断すると、他箇所の埋納に先立つと思われる。

青銅器への祈りが、現状の水田基盤の維持・復旧にあるとすれば、鉄器普及による大々的な水田の改築後には青銅器は不要となる。しかし、長い祈りの年月を経て、青銅器にはいわば“念”がこもっている。役割を終えたからといって、ぞんざいに扱うわけにはいかない。（同様な対応は現在でもある。）そこで、広い領域（国）の地鎮のために各地から集められ、意味のある場所が選定されて埋納されたのではなかろうか。この時、“復旧”の機能が発現しないように舌が外されたと想像する。



図-5 淡路島の遺跡
(淡路島日本遺産委員会資料、書込みは本稿)



写真-6 松帆銅鐸
(奈良文化財研究所資料)

6. 周辺事物（山、神社等）との位置関係

図-1 には、3 ヲ所の青銅器埋納位置と、ランドマークである山や著名な神社等との位置関係を破線で示している。既稿においては二等辺三角形や直角三角形等を読取ったが、本稿は広域を対象としているので、直截的な直線関係を把握する。なお、表-1～表-3 の座

標・角度の数値説明は省略する。

(1) 志谷奥－大船山－神の宮

日御碕神社・神の宮にはスサノオが祭られている。埋納位置－カンナビ山－スサノオという関係である。

(2) 熊野大社－加茂岩倉－長浜神社

スサノオ－埋納位置－ヤツカミズオミツヌという関係である。地名“出雲”の命名について、記紀はスサノオ、出雲国風土記はヤツカミズオミツヌとする。

(3) 荒神谷－高尾山（西）－神の宮

埋納位置－スサノオの航路関連（参考文献4参照）－スサノオという関係である。

(4) 大黒山－荒神谷－大黒山（北）

同じ山名の間に埋納位置がある。大黒山の山頂部で、オオクニヌシとスクナヒコナが国造りを話し合ったとされる。大黒山（北）は、荒神谷の埋納位置が決まったあとに命名されたと考えるべきだろう。

(5) 船通山－出雲大社－日御碕神社神の宮

木本雅康氏は、日御碕・経島－出雲大社－木次町日登－船通山を出雲ラインとし、冬至の日出、夏至の日没方向とする¹⁾。

日御碕神社はスサノオを祭った神の宮（上の宮）と、アマテラスを祭った日沉宮（ひしずみのみや、下の宮、元は経島にあった）からなる。

出雲大社の祭神はオオクニヌシだが、中世はスサノオであった。現在、本殿背後には素鷲社（祭神：スサノオ）がある。古代から中世に至る間の事情は不明だが、スサノオ関連の神社とみてよからう。

したがって、船通山－出雲大社－日御碕神社神の宮のラインは、スサノオ降臨地－スサノオ－スサノオの関係と読み取ることができる。

7. スサノオノミコトとヤツカミズオミツヌノミコト

「出雲」という名称について、出雲国風土記はヤツカミズオミツヌが名づけたとする。一方、記紀はスサノオの和歌“八雲立つ出雲八重垣妻ごみに八重垣つくるその八重垣を”を名称由来とする。

ヤツカミズオミツヌは、国引きをした神として知られる。ところが中世には、国引きをしたのはスサノオと理解されていたようだ。井上寛司氏の著作²⁾や斎藤英喜氏の著作³⁾に詳しいが、仏教の聖地・霊鷲山の一部が砕け、海に漂っていた浮浪山をスサノオが引き寄せて杵でつなぎとめた（図-6）、という仏教色の濃い物語である。当時の出雲大社（杵築大社）も同内容の文書を残す。



図-6 スサノオの国引き
(出雲弥生の森博物館特別展パンフレット・部分)

通説では、ヤツカミズオミツヌは古事記に載るスサノオ4世の孫オミツヌとされる。しかし、ヤツカミズオミツヌを祭る代表的な神社である長浜神社においては、両者は別神として祭られている。

スサノオに関しては、出雲から新羅までの経路に神社や事績が多い⁴⁾。一方、ヤツカミズオミツヌは出雲国内他のごく少数の神社で祭られているに過ぎないが、島根半島西部の旅伏山にはヤツカミズオミツヌが韓国（からくに）から帰還して休憩したという伝説がある。また、周辺にはスサノオの腰掛石・岩船・帆柱石、ヤツカミズオミツヌの帆柱石などがあり、両者の事績が交錯している。

以上を整理すると次のようになり、スサノオとヤツカミズオミツヌにはかなりの共通性がある。

- ① 出雲という名称を名付けた。
- ② 国引きを行った。
- ③ スサノオ4世の孫オミツヌとヤツカミズオミツヌは異なる。
- ④ 韓国へ航行した。島根半島周辺に事績がある。

これらの事柄を俯瞰すると、スサノオとヤツカミズオミツヌは同神のように思われるが、いかなるものであろうか。

8. まとめ

志谷奥遺跡、荒神谷遺跡及び加茂岩倉遺跡からは、多数の弥生時代の青銅器が出土している。これら青銅器の埋納位置は、大山と三瓶山の位置との関係で説明することができる。志谷奥遺跡は大山－三瓶山を底辺とする二等辺三角形の頂点にある。かつその位置は、大山－嵩山（烽）と三瓶山－大袋山（烽）－仏経山（カンナビ山）－朝日山東峰（カンナビ山）の交点である。

荒神谷遺跡と加茂岩倉遺跡は、三瓶山と志谷奥遺跡を結ぶ線上と、大山－仏経山の線上に位置する。△大黒山－荒神谷－加茂岩倉と△高瀬山－加茂岩倉－荒神谷は、荒神谷－加茂岩倉を底辺とする二つの二等辺三角形を形成する。

埋納位置の選定には明確な意思があり、位置選定の手順・方法より判断すると、相応の測量技術と地図があったものと思われる。

各地域の水田の地鎮のために用いられた青銅器は、鉄器普及による大々的な水田の改築後に不要となり、各地から集められてより広い領域（国）の地鎮に用いられたと思われる。そして、青銅器埋納は出雲国の祖神・スサノオと関連付けられている可能性がある。

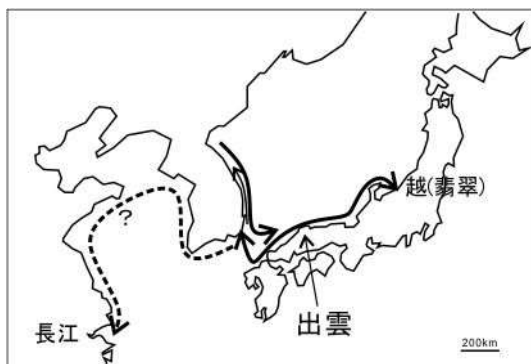
<参考> 古代の航路について

出雲国風土記の冒頭を飾る国引き神話は、「新羅の岬」、「北門の佐伎の国」、「北門の良波の国」及び「越の都都の岬」から国の余りを引いてきて、島根半島を形作ったとする物語である。これは、出雲を中心とした海外交流・交易がもととなっていると考えられる。出雲地方には、裏付けとなる遺跡や遺物も多く⁴⁾、スサノオには新羅～対馬～北九州～石見～出雲の間に、オオクニヌシには九州～出雲～越の間に事績や物語がある。

交流・交易のルートを図-1 に示した。水稻栽培の由来地である長江下流域まで伸びていたかどうかは不明だが、朝鮮半島～出雲～越を結ぶ航路は確実に存在した。

酒造り研究家の堀江修二氏（農学博士、元島根県工業試験場勤務）は、酒の種類について次のように解説する。「穀物から粥を造り、麴を加えて造る古いタイプの麴醴（びれい）の酒と、穀類を蒸して水と麴を加えて造る饌醴（ふんれい）の酒とに分けられる。周代のころに中国の中・南地域では、ほぼ味が濃くて旨い饌醴の酒に変わった。日本の酒は饌醴が主だが、出雲地方の古い神社である出雲大社や須佐神社では朝鮮半島や中国北方系の麴醴系の酒が造られ、祭祀に使われている。」⁵⁾

つまり出雲は、前述のルートの他に、朝鮮半島を南下する東側のルートともつながっていたと推察される。国引き神話の「北門の佐伎の国」と「北門の良波の国」の所在地は不明とされるが、航路を考えると、朝鮮半島東側の可能性が高いと思われる。



参図-1 古代の航路（推定）



参図-2 国引きの綱（推定）

参考文献

- 1) 木本雅康：出雲大社と太陽方位信仰，出雲古代史研究第 5 号，出雲古代史研究会，pp.23-25, 1995.
- 2) 井上寛司：「出雲神話」における古代と中世—スサノヲ論を中心に—，出雲古代史研究第 10 号，出雲古代史研究会，pp.1-15, 2007.
- 3) 斎藤英喜：神話学からみる中世出雲神話，出雲弥生の森博物館「もう一つの出雲神話」講座資料，2013.
- 4) 吉田薫：スサノオの来たみちを探る，島根県技術士会研究報告，pp.159-176，島根県技術士会，pp.159-176, 2017.
- 5) 堀江修二：酒から見た古の出雲，今井印刷株式会社，pp.22-24, 2015